

令和6年度第1回旭川市史デジタルアーカイブ検討会 議事要旨

日 時：令和6年7月26日（金） 午後6時00分から午後7時30分まで

場 所：旭川市総合庁舎2階 臨時窓口スペース

出席者：参加者9人（50音順，敬称略）

海老名 尚，桑野 紗耶加，小林 蒼斗，斉藤 真理子，高橋 健史，
谷口 雅彦，東海林 柚希，那須 敦志，森崎 真美恵

事務局5人

総務部長 和田，総務部次長 金，総務課長補佐 岡田，
総務課主査 安江，総務課 高島

傍聴者2人（市民0人，報道2人）

議 事：1 事業概要

2 検討会スケジュール

3 意見交換

4 その他

議事に入る前に，事務局の紹介，参加者の自己紹介，進行役の選出を行った。

議事1 事業概要

事務局から事業概要について資料1に基づき説明。

参加者の発言等は次のとおり。

【参加者】

確認だが，検討会の役割として，意見を答申のようなかたちでまとめる必要があるか。

【事務局】

本会は懇談会という位置付けであって，審議会の答申のように意見をまとめる必要はない。
自由に発言していただいた様々な意見を市で参考にさせていただく。

議事2 検討会スケジュール

事務局から検討会スケジュールについて資料2に基づき説明。

参加者の発言等は次のとおり。

【参加者】

（検討会スケジュール中，第2回の予定議事について）年表や地図等の資料はいつからいつ

までにするのか。

【事務局】

そこも含めて、御意見を伺いたい。

年表の整理は市職員が行うが、現代からどれだけ近いところまで整理するのか、また、複数年度の作業を想定する中で、年度ごとにそれぞれどこまでまとめるか等、確認していきたい。

【参加者】

年表のスタートは戦前からか。

【事務局】

昭和20年までは『新旭川市史』の年表をベースとして整理し、昭和20年以降をどうまとめるかを意見を伺いながら整理していきたい。

昭和20年以降は、『新旭川市史』の年表と同様に分野を設定して整理していくのか、あるいはもっとシンプルにしていくかどうか、考え方を今後に諮っていきたい。

【参加者】

（実際の年表整理を）誰がやるのか気にしていたが、市職員がやるのは大変なこと。

どのような項目を立てるかなど、基準を作り、ばらつきが出ないようにするべき。

もう一点、収集・選定する資料は年表と絡めたものか。

【事務局】

年表と紐付ける資料は整理していくが、年表に関わらず整理していくものもある。

どういう資料なら関心を得やすいか等の考えを今後伺っていく。

【参加者】

今まで使った写真の原本がどこにあるか、はっきりしているか。

【事務局】

これまでの市史自体には、写真等の掲載は決して多くなく、記念誌等でよく使われているが、それらの資料は市で管理している。

また、中央図書館や博物館が所蔵する写真等の資料がある。

【参加者】

写真のデジタル化はどのようにするのか。

【事務局】

業者へ委託し、資料を預けたり、写真を撮る等の方法でデジタル化する。

議事3 意見交換

市史の編さんやデジタルアーカイブにかかる考えなどについて、意見交換を行った。
参加者の発言等は次のとおり。

【参加者】

まだ事業についてはわからないことが多いが、デジタルアーカイブをせっかく作るからには、様々な方に見やすく分かりやすいものができればと思う。

【参加者】

自分の考え方として話しておく、通史の編さんを中断せざるを得ないのは市の説明のとおり事情があったことであるし、書籍という形にしてもなかなか読む人がいないということも事実ではあるが、それでもやはり、本音としては、市の歴史を通史としてまとめることは大切。『新旭川市史』は他の自治体史と比べてみても内容がとても充実している。お金も時間もかかって難しい事情はあったが、素晴らしいものになっている。

デジタルという新しい技術を使って事業を行っていくという方向性は良いと考える。やるからには、そういう形にして良かったと思ってくれるように、使い勝手が良い、面白い、役に立つ、と思えるものにしていくことが大前提。

【参加者】

市を知るきっかけとなるようなデジタルアーカイブになってほしい。

論文を書く関係で市史を読むことがあったが、こんなことも載っているのかと思った。しかし、そのような目的を持った機会がないと読むことはないと思うので、デジタルアーカイブを通じて、市民はもちろん、小学生であったり市外の人などにも広く、もっと知りたい、実際に行ってみたい、と思ってもらえるようになると良いと考える。

【参加者】

デジタルアーカイブの取組は賛成。

デジタルアーカイブは違う言い方をすると仮想空間のようなもので、情報発信として良いアイデアであるし、今後の旭川市にとってもプラスになることだとも思うが、おろそかにしてはいけないのが、デジタルスキャンしてデータ化した原本の写真や図面はきちんと残すこと。例えば20年くらい前にデジタル化した資料の画像は現在となっては画質が悪い。改めて作り替えることができるようにするためにも、面倒かもしれないが、原本は永久保存してほしいと考える。

【参加者】

アーカイブの作成に加え、原稿の元となる資料保存が肝となる。

数年間手つかず状態と思われる保存資料を整理することも今後につながる大事なこと。オーラルヒストリーで証言をデジタルで残す計画も検討してほしい。

【参加者】

教育現場では、すでにタブレット端末が導入されており、子どもたちは教員を超えるくらい柔軟に駆使していて、このようなものを使った学びがスタンダードになっていることから、デジタルアーカイブは学習効果が大きいものになると考えている。

教科書で、出来事に沿って日本や旭川の歴史を学ぶということにおいて、全てを網羅することは厳しいので、いくつかの資料を見ながら学ぶという手法をとっているが、例えば、常磐公園でかつて博覧会が行われていたことを授業で扱って子どもたちに考えてもらうときに、デジタルアーカイブを活用して、旭川ではこんな風に行われていたのかというつなげ方ができる。

また、これまで学校に地域の方々を招いて歴史を語ってもらうと、そんな凄いことがあったのかと思うこともあった。デジタルアーカイブでこのようなものが仮想的に表現できると良い。

ほかのデジタルアーカイブの事例を見ても興味を持って調べられると感じた。歴史の整理は大変で時間がかかると思うが、まず土台ができれば発展性があるのがデジタルアーカイブの良いところだと思うので期待したい。

子どもたちには、このまちを大好きになってほしい。やがて市外に出て行く子どもたちもいると思うが、このまちが好きだという基盤があるからこそ、行った先で頑張れることもある。旭川の良さを子どもたちと一緒に学んでいければ良いと思う。

【参加者】

昔旭川のここに住んでいた、という人の、当時の写真や地図を知りたいという需要は多い。デジタルアーカイブではそのような希望に応えるように、写真や地図の資料を整理すると良い。

また、旭川の「人物」に着目して簡単な略歴等を整理したまとめ方や、旭川の「辞典」のようなまとめ方も興味深いのではないかと考える。

【参加者】

地域の歴史については、周りの大人や祖父母からの話で、昔ここに何があったなどを聞いたことがあったが、実際にその場所へ行ってみても本当に分からない。

デジタルアーカイブで、当時から現在までの街並みの変化の過程などを見せることができれば、旭川に住む人たちが実感を持って興味が深まるものになり、利用者も増えると考えます。

【参加者】

誰に見てもらうのかということが大事になってくる。せっかく労力と経費をかけるなら、より多くの人に見てもらうようにしていくことで、授業に役立ったり、ビジネスのきっかけになることもあるだろうと考える。

また、自分は防災について興味を持っているが、これまでの旭川における災害を学ぼうとしても断片的にしか情報が得られなかった。昔この地域で浸水があったなどの情報があれば、そこから学ぶ安全対策もあるかもしれない。

一方で、面白いものというところで、旭川に関係する有名な人の情報や、そのような人の歌を載せるなどしても良いと思う。

面白い要素も難しい要素もあり、まとめるのは大変だと思うが期待したい。

事務局への確認・質疑

【参加者】

確認だが、年表は戦前のものもアーカイブに入れるのか。

【事務局】

令和6年度取組として『新旭川市史』で既に整理されている昭和20年までの年表をベースに、フォーマットを変えて搭載する。既に市史として整理されている内容なので、これについては基本的に検討会に諮らずに進めていく。

【参加者】

写真や地図、読み物等のコンテンツでアーカイブに入れるものは戦後のものか。
戦前のものも少し遡るのか。

【事務局】

年表で新しく作るのは昭和20年以降だが、アーカイブに取り込む写真や音声等の情報は昭和20年前後に関わらず整理していく。

【参加者】

令和7年度以降の取組について、資料整理やインタビュー等、甘くはない作業だが、市職員だけで本当にできるか不安。
市の体制は考えた方が良いと思う。

【事務局】

担当である総務課では、他の業務もある中での作業となり、片手間では難しい面があることは理解している。

今後へ向けて、人員体制など、どういう体制でできるかも含めて整理していく。

また、先日、プロポーザルの審査により、デジタルアーカイブの受託候補者が決まり、これから契約する予定。その提案の内容などについて、次回の検討会で示せればと考えている。

議事4 その他

意見・提案等の発言なし

以上